

第40回関東地区公立中学校  
修学旅行研究発表会  
研究紀要



期日：平成16年11月5日(金)

会場：ホテルレイクビュー水戸(水戸市)

主催

関東地区公立中学校修学旅行委員会  
財団法人 全国修学旅行研究協会

後援

群馬県・埼玉県・千葉県・栃木県・茨城県・水戸市各教育委員会  
群馬県・埼玉県・千葉県・栃木県・茨城県各中学校長会

## 研究発表会の趣旨

学校週5日制の下、平成14年度からあたらしい教育が始まり3年目を迎えました。

新しい教育では、人としての確かな資質と新しい時代に対応できる能力を備え、豊かな心をもった人間の育成を目指しています。

したがって日々の教育活動に、子どもたちが設定した課題に、自らの考えと方法をもって積極的に対応していこうとする意欲とそれを解決していく力を身につけたり、また周りと協力しながら社会性を養い、共に生きる姿勢を身につけるための場面を取り入れ、教育を展開する必要があります。そのために、学校に、主体性をより一層生かし、これまで以上に創意に満ちた特色ある教育活動の展開を図っていくことが強く求められています。

さて、生徒が平素と異なる生活環境のもとで、人とのふれあいや様々な体験と学習の展開が図れる修学旅行は、あたらしい教育の目的を十分果たしえる教育活動の実践の場であると考えます。いうまでもなく修学旅行は子どもたちが最大の関心を寄せる学校行事であるとともに、一人一人の生徒の個性や人間性を育み、生徒の人間形成に極めて大きな影響を及ぼすなど、その教育効果は大きいものがあると考えます。

今日各学校は修学旅行を実施するにあたり、新しい教育の趣旨を汲み取り、子どもたちの主体性を生かし、さらには教育効果をより高めるために関係者や関係機関との連携を図る中で、創意に満ちた取り組みをされていることと思います。

このような趣旨から研究発表会の主題に「みんなで創ろう21世紀の修学旅行」を設定し、各県教育委員会をはじめ、関係教育諸機関のご協力とご支援により、関東地区公立中学校修学旅行研究発表会を開催し、修学旅行の研究を深めることは大きな意義があることと考えます。

# 目 次

1 研究発表会次第	1	
2 あいさつ		
関東地区公立中学校修学旅行委員会会長	金澤 昭 男	2
財団法人 全国修学旅行研究協会理事長	中 西 朗	3
3 研究発表		
主題 「みんなで創ろう21世紀の修学旅行」		
・発表 1		5
修学旅行における国際交流学習の一端		
- 「Why don't you come to Suifu?」郷土紹介のガイドブックを携えて-		
水府村立水府中学校	棚井 義広 教諭	
古内 勝己 教諭		
・発表 2		35
「集団づくり及び総合的な学習の時間の場としての修学旅行の在り方」		
- 中学校3か年の旅行・集団宿泊的行事の実践的取り組みを通して-		
水戸市立第四中学校	一色 三千男 教諭	
4 指導講評		48
茨城県教育庁義務教育課 指導主事	藤田 達人 先生	
5 研究発表のあゆみ		50

## 研究発表会次第

- 1 大会主題 「みんなで創ろう21世紀の修学旅行」
- 2 日 程
  - (1) 受付 (13:00～13:30)
  - (2) 開会行事 (13:30～13:50)
    - ・ 開会のことば  
関東地区公立中学校修学旅行委員会運営委員長 八木岡 忠
    - ・ 主催者あいさつ  
関東地区公立中学校修学旅行委員会会長 金澤 昭 男  
財団法人 全国修学旅行研究協会理事長 中西 朗
    - ・ 来賓あいさつ  
茨城県教育委員会教育長 川 俣 勝 慶  
水戸市教育委員会教育長 鯨 岡 武
    - ・ 来賓及び指導者紹介
  - (3) 研究発表 (13:50～15:00)
    - ・ 関修委の調査研究及び活動報告  
関修委研究委員会委員長 金澤 眞 理
    - ・ 発表1  
「国際交流のための一取り組み」  
-ガイドブック「すいふ」を通して-  
水府村立水府中学校 棚 井 義 広 教諭  
古 内 勝 紀 教諭
    - ・ 発表 2  
「集団づくり及び総合的な学習の時間の場としての修学旅行の在り方」  
-中学校3ヵ年の旅行・集団宿泊的行事の実践的取り組みを通して-  
水戸市立第四中学校 一 色 三千男 教諭
  - (4) 休 憩 (15:00～15:15)
  - (5) 研究協議 (15:15～15:45)
  - (6) 指導講評 (15:45～16:15)  
茨城県教育庁義務教育課 指導主事 藤 田 達 人 先生
  - (7) 閉会行事 (16:15～16:30)
    - ・ 閉会の言葉  
茨城県中学校修学旅行委員会 副委員長 早 瀬 長 利
    - ・ 諸連絡

## 研究発表会の開催にあたって



関東地区公立中学校修学旅行委員会  
会長 金澤 昭 男  
(茨城県水戸市立千波中学校長)

第40回を迎える関東地区公立中学校修学旅行研究発表会が、盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

さて、地方分権の流れの中で教育における構造改革が進められ、「画一と受け身の教育」から「自立と創造への教育」へと転換が求められています。

一方、新学習指導要領が全面実施され、早くも3年目を迎えました。ともすると惰性に流されたり、マンネリ化したりする時期でもあります。そうした面から不断の改善が進められ、現行の趣旨や課題を再確認する意味から、昨年12月にその一部が改訂されたばかりです。改めて、新しい時代を切り拓く「生きる力」という大きな目標が各学校にどのように浸透し、一人一人の児童、生徒にしっかり培われているか問われてくると思います。思うに、どんな教育改革も一つ一つ教室の中で、或いは一時間一時間の授業の中で、子どもたちの姿がそれによって変わらなければ、成果があがったとは言えません。生徒一人一人の心の育ちや体力、学力の問題は、日々の授業の着実な実践の積み上げが大切で、それなくしての改革はあり得ないことと思います。

修学旅行は、これまで営々と築き上げてきた優れた体験的、実践的な行事です。「生きる力」をはぐくむための大変重要な役割をもった行事と言えます。

本県においては、新幹線を利用できるようになった昭和40年代半ばから奈良・京都方面で計画されるようになり、30年が過ぎました。この間、多くの先達が常に新しい時代にふさわしい修学旅行を目指して工夫改善を図ってきました。

関東地区公立中学校修学旅行委員会は財団法人全国修学旅行研究協会のもと、体験活動の実態調査や安全面など情報の収集、修学旅行専用列車の輸送の効率化、修学旅行関連の研究図書の刊行の協力など地道な取り組みを進めてきたわけであります。

こうした各地区の取り組みを支え、修学旅行の活動の実効化を図るため、関修委の果たしてきた役割は誠に重要であります。

本日の研究発表会での実践報告が多くの学校の参考となり、新しい修学旅行の在り方に示唆を与えてくれることに期待します。

最後になりましたが、本研究発表会を開催するにあたり、ご指導ご助言いただきました茨城県教育委員会、水戸市教育委員会、茨城県学校長会並びに関係諸団体、さらに、研究発表会の運営に携わってられました財団法人全国修学旅行研究協会、茨城県修学旅行委員会の皆様に厚く御礼申し上げます。

## 関東地区公立中学校

### 修学旅行研究発表会の開催にあたって



財団法人 全国修学旅行研究協会  
理事長 中西 朗

秋への深まりが感じられるこの頃です。

関東地区公立中学校修学旅行研究会も40回を重ねることができました。これもひとえに皆様方のお力添えと深く感謝申し上げます。

この間、「達成感を目指した修学旅行」「主体性を育てる修学旅行」「体験学習を通して生き方を学ぶ修学旅行」「自ら学び取る力の育成を目指す修学旅行」「集団の行動力を高める修学旅行」等々、その時代に応じ、しかも今後の教育の方向を先取りしたテーマが散見されます。

それだけに、修学旅行の実施のあり方が、その学校の教育実践の方向性を示しており、先生方の生徒たちへの願いを集約したテーマが設定されているといえるのでしょうか。ですから、生徒個人また生徒集団にかかわる「生き方、あり方」が、3年間を総括する修学旅行の目的となっています。このように考えてみますと、修学旅行は、学校教育の一大行事であると同時に、創意ある学校を構築する基本方針を提示するものとして重要な役割を果たすものといえましょう。

学校教育の変革とともに、修学旅行の姿も変化しています。基本的には、「学習の集大成としての思い出多い集団旅行」といえますが、交通手段や旅行地が拡大され、「学び方」に多くの工夫がなされています。例えば、「国際理解教育」も、「国際交流教育」の意味合いが大きくなりました。すなわち、単なる理解にとどまることなく、「自己確立」と「共に生きる」を重視した行動計画が求められています。「理解」という受動的な内容に、「自然・文化・人々との交流」を通じ、そこに自己を投影させることによって、より深い「理解」を獲得することになります。

今回の研究発表も、各学校の創意に満ちた実践として、期待多い発表です。ご苦労に深く感謝申し上げます。

最後になりましたが、関東地区公立中学校修学旅行委員会、各県の教育委員会、特に開催地の水戸市の教育委員会、各県の中学校校長会、茨城県修学旅行委員会の皆様のご支援とご尽力に心から御礼申し上げます。

# 修学旅行における国際交流学習の一端

「Why don't you come to Suifu?」郷土紹介のガイドブックを携えて

水府村立水府中学校

教諭

古内

勝紀

教諭

棚井

義広

## はじめに

### テーマ設定の理由

- 1 本校の教育目標とのかかわりから
- 2 教科とのかかわりから
- 3 総合的な学習の時間とのかかわりから
- 4 修学旅行とのかかわりから

### 修学旅行までの取り組み

- 1 学習内容
- 2 京都・奈良についての調べ学習
- 3 修学旅行の課題の設定
- 4 修学旅行実行委員会の編成
- 5 ガイドブック作り
- 6 コミュニケーションの練習
- 7 コミュニケーション体験の位置付け
- 8 班別行動の移動の方法

### 修学旅行の実際（コミュニケーション体験の実際）

- 1 実践例 1 京都駅での体験
- 2 実践例 2 班別行動でのコミュニケーション体験
- 3 生徒の感想

### 修学旅行後の実践

- 1 お礼のEメール
- 2 相手の方からの返事のEメール

### まとめと今後の課題

- 1 まとめ
- 2 今後の課題

## はじめに

本校は、茨城県北部の山間部に位置する水府村にあり、3つの小学校の学区を抱えている。水府村は、今年の12月には常陸太田市、金砂郷町、里美村との合併が決まっている。そばや果樹などの栽培が盛んであり、関東一長い歩行者専用の吊り橋「竜神大吊り橋」で有名である。また、平成15年3月には72年に一度の水府村から日立の海岸までの「金砂大祭礼」が行われ、テレビや新聞でも大きく取り上げられた。今年度の生徒数は206人、学級数が7であるが、年々生徒数が減少している。英語の学習では、ALTに積極的に話しかけるなど、コミュニケーション活動に関心を持っている生徒も多い。8月には、中学生海外派遣事業として15人が中国への留学を体験するなど積極的に国際交流を進めている。英語学習や海外派遣の成果については、10月の文化祭で全校生徒及び地域の方に公開する予定である。総合的な学習の時間の取り組みについても同様に12月に公開する予定である。

## テーマ設定の理由

### 1 本校の教育目標とのかかわりから

本校の教育目標は「明るく 心豊かで 自ら学ぶ たくましい生徒を育成する」である。この目標のもと一人一人の力を伸ばす創意と活力のある学校づくり（生徒一人一人のパワーアップ）を重点に取り組んでいる。一人一人の力とは、基礎・基本と考える力豊かな心 健康・体力ととらえ、総合的な学習の時間をはじめ問題解決的な学習を積極的に展開して自ら学ぶ力を育成するとともに将来の生き方に夢がもてるような学習を工夫している。

### 2 教科とのかかわりから

『「英語が使える日本人」の育成のための行動計画』は、英語により日常的な会話や簡単な情報の交換ができるような基礎的・実践的なコミュニケーション能力を身に付けるようにすることや、国際理解教育を推進することで英語学習へのモチベーションの向上を推進する必要性について述べている。本校の英語の授業でも、ALTとのT・Tや英会話を積極的に取り入れ、英語による一人一人のコミュニケーション能力のパワーアップにも重点的に取り組んでいる。

### 3 総合的な学習の時間とのかかわりから

本校の総合的な学習の時間の学年のテーマは、

1 学年が「見つめよう自分、見つめよう地域」

2 学年が「夢に向かって」

3 学年が「国際理解、ディスカバー ジャパン」

である。自分を見つめて地域を見つめ国際理解を図るという学習の構成になっている。そこで、1学年で学習した内容と3学年での学習内容との関連を図るために、1学年で調べた地域の特色を紹介する英文のパンフレットを作成して外国の方に水府村を紹介するという手法をとることにした。

また、自分の興味や関心に基づいた課題を設定し、課題解決のための追究活動を計画することも今後の活動を支える大きな要素となると考え、各グループに学習課題を設定させるようにしたい。



## 総合的な学習のテーマ

### 1年 「見つめよう自分，見つめよう地域」

- ・自分自身をさまざまな視点から見つめることにより，自己理解を深め，自らの生き方について考える態度を養う。
- ・自分と地域の関わりを考え，地域について自ら課題を見付け，主体的に学習することにより問題解決能力を育てる。
- ・さまざまな探究活動を通して学び方の基本を身に付けることができる。

### 2年 「夢に向かって」

- ・身近な人の職業やさまざまな職業を調べることや，客観的に自己理解をすることによって，自らの将来の職業や生き方について考える態度を養う。
- ・さまざまな職業で働く人の生き方や考え方を知り，自己の将来について考えながら，職業についての適切な課題を見付け，主体的に活動することにより問題解決能力を育てる。
- ・調査，追究，まとめ，話し合いなどの学習活動を通して，情報の収集力や調査力，まとめる力，発表する力，コミュニケーション能力などの育成を図る。

### 3年 「ディスカバー ジャパン」

- ・国際化の進展やボーダーレス社会となる21世紀を生きる生徒にとって大切な国際理解を，修学旅行のさまざまな体験を通して深める。
- ・異文化理解や国際交流，国際ボランティアなどの国際理解のためのさまざまな方法について自ら考え，実践しようとする態度を養う。
- ・国際理解（異文化理解）を進める上での基礎となる，我が国の伝統的な文化や社会，習慣について知り，それらを尊重し守り育てようとする態度を養う。
- ・修学旅行中のさまざまな見聞や体験から自分の興味や関心に基づいた課題を設定し，課題解決のための追究活動を計画し，進んで取り組むことができる。

## 4 修学旅行とのかかわりから

以上の点に留意しながら，総合的な学習の時間と関連を図った修学旅行ではどのような活動ができ，どのような効果が期待できるかを考えてみた。まず，一人一人の生徒の基礎・基本と考える力 豊かな心 健康・体力のパワーを高めるためには，目的意識を持たせることが大事である。修学旅行でコミュニケーション能力の育成を図ろうとするとき，自分で伝えたい内容を持たなければ，学習のモチベーションは高まらない。英会話のための英会話になってしまう。自分が対象とする相手に伝えたい身近な内容を持つことで意欲をもって英会話に取り組めるのではないかと考えた。そこで，水府村の良さを紹介して，外国の方に水府村に来てもらおう，Eメールアドレスを教えてもらって今後も交流を続けていこうという目的を持って今後の学習を展開できるよう各グループにアドバイスするようにした。

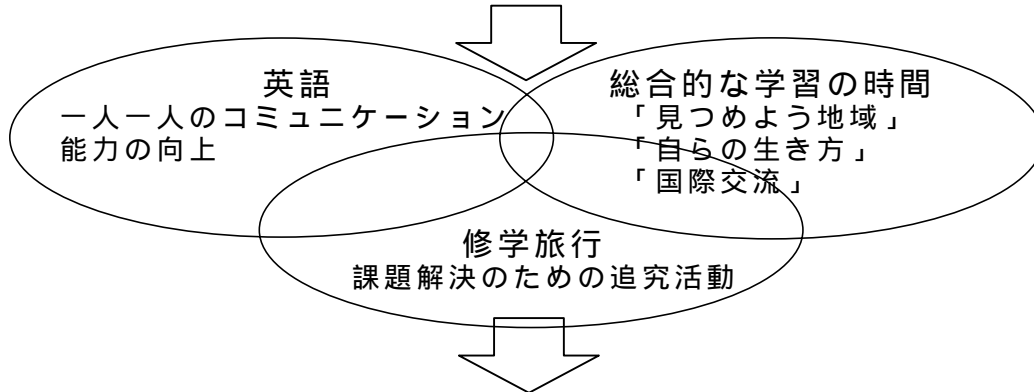
以上のことから，1学年の総合的な学習の時間で調べてきた地域の特色を教材とし，外国の方に紹介する活動を通して英語によるコミュニケーション能力の向上を図ることで一人一人の力を伸ばしていきたいと考えて本主題を設定した。

学校の教育目標

明るく 心豊かで 自ら学ぶ たくましい生徒を育成する

経営の重点と努力点

一人一人の力を伸ばす創意と活力のある学校づくり  
(生徒一人一人のパワーアップ)



発表テーマ

修学旅行における国際交流学習の一端  
「Why don't you come to Suifu?」  
郷土紹介のガイドブックを携えて

修学旅行までの取り組み

1 学習内容

	月日(曜)	学習内容	時間
事前学習	1月 9日(金)	ガイダンス	2
	1月16日(金)	見学地の調べ学習	2
	1月23日(金)	見学地の調べ学習, 課題の設定	2
	1月30日(金)	第1回実行委員会(組織作り, 今後の見通し)	1
	2月 6日(金)	第2回実行委員会(水府村ガイドブック作り)	2
	2月20日(金)	第3回実行委員会(水府村ガイドブック作り)	2
	3月 6日(金)	第4回実行委員会(見学地, 見学グループ)	1
	3月13日(金)	見学コース作り(旅行会社の方のアドバイス)	2
	4月16日(金)	班別研修について	2
	4月20日(火)	第5回実行委員会(班別研修のグループ)	2
	4月22日(木)	第6回実行委員会(部屋割り)	2
	4月23日(金)	グループ作り	1
	4月30日(金)	班別研修のコース決定	1
	5月 7日(金)	部屋割り, 日程の確認	2
	5月14日(金)	インタビューのしかたについての事前指導	2
	5月21日(金)	インタビュー練習	1
修学旅行	5月25日(火)	奈良方面の見学	4
	5月26日(水)	班別研修, 国際交流	8
	5月27日(木)	京都方面の見学	4
事後学習	5月28日(金)	資料の整理	2
	6月 4日(金)	見学のまとめ	2
	6月11日(金)	Eメールの原稿作成	2
	6月25日(金)	Eメール送信	2
	7月 9日(金)	Eメール再送信	2
	9月17日(金)	Eメール再々送信	2

網掛けの部分は総合的な学習に関する内容  
囲みの部分は英語の学習に関する内容  
その他は, 修学旅行に関する内容

## 2 京都・奈良についての調べ学習

ガイダンスの後，インターネット，図書を使っての京都や奈良の歴史や建造物について調べた。自分たちが興味のあるところを調べることで今後の班別の計画を立てる際の基礎資料とした。また，見学したいところを地図上にプロットして，どこにあるのかを確認することでコースを作る際の参考にするようにした。特に，コースを作る際に役立ったのは，京都のタクシー会社で配布していたパソコンソフトで，見学地を入力するとコース順や必要な時間などが表示され，効率的に作業を進めることができたことにつながった。

## 3 修学旅行の課題の設定

見学場所がある程度決まったら，本校の総合的な学習の時間の学習の構成をもとに，グループごとに修学旅行の課題を考えた。

### 総合的な学習の時間の学習の構成

自分を知る 地域を知る 日本の文化を知る 他の国を知る 国際交流

各グループ，日本の文化を知る，国際交流の2つの課題を設定するようにしたが，2つの課題はつながりがあることを意識させるようにした。ここで課題を考えさせたことで後の調べ学習やガイドブックの作成，コミュニケーションの練習などに目的意識が持てたようである。また，国際交流の際に，自分たちはコミュニケーションのどこに重点を置くのかというスタンスがグループごとにはっきりしてきた。

班	学 習 課 題
1 班	古都ならではの歴史のある建造物について，その特徴を調べ日本の文化を知る。 積極的に外国の方に話しかけ，水府村や日本のことを紹介するとともに他国の文化についても知る。
2 班	京都の歴史的な建造物を見学し，京都の文化やその時代の背景について知る。 多くの外国の方と積極的に会話して，名前・出身国を地図に記入して，後での交流に役立てるようにする。
3 班	古都の歴史や文化に触れることで，自分の国を見つめ直し，伝統への理解を深める。 外国の方に積極的に話しかけ，ガイドブックを利用して，水府村の良さを伝えながら，外国の方との交流を深める。
4 班	日本古来の建造物を見学したり，地元の人から伝統的な文化や習慣を聞いたりすることで日本についての理解を深める。 外国の方との会話をはじめとして修学旅行後も交流できるようにする。
5 班	京都の歴史的な建造物を見学し，京都の文化やその時代の背景について知る。 多くの外国の方と接して，水府村を紹介することで国際交流を深める。
6 班	古都の歴史や文化に触れることで，自分の国を見つめ直し，伝統への理解を深める。 多くの外国の方と積極的に会話して，名前・出身国を地図に記入して，後での交流に役立てるようにする。
7 班	京都や奈良の歴史や文化を知ることで，日本についての理解を深める。 たくさんの外国の方と積極的にふれ合い他国から見た日本文化を知る。
8 班	日本の歴史や文化を知ることで日本についての理解を深める。 外国の方に積極的に話しかけ，ガイドブックを利用して，水府村の良さを伝えながら，外国の方との交流を深める。

#### 4 修学旅行実行委員会の編成

実行委員は各クラスより男女2名ずつを選出し、合計8名とした。その中から委員長と副委員長を選び、水府村紹介のガイドブック作りを分担した。その他、各クラスの見学場所、体験活動のグループの作り方、部屋ごとのグループの作り方などについて話し合った。話し合いが最も活発だったのは、体験学習のグループをどうするかということであった。教師側は、今までの生徒の様子を見てみると、外国の方に英語で水府村を紹介するためには、男女別のグループがよいのではないかと考えていたが、男女混合のグループを認めてほしいということで、自分たちなりに意見を集約していった。

#### 5 ガイドブック作り(資料)

まず、1学年の時の総合的な学習の時間のまとめの資料をもとに、水府村の特色を出し合った。最終的に、

##### 「水府中学校」

Suifu Junior High School is our school.

It is located in the northern part of Ibaraki prefecture, which is near Tokyo.

There are a lot of beautiful flowers and trees around our school.

##### 「竜神峡」

Ryujin-kyo is a section of the Yamada River.

It's very beautiful and is known as one of the most scenic places in Ibaraki.

##### 「竜神大吊り橋」

This bridge is located in Ryujin valley.

It is one of the longest pedestrian suspension bridges in Japan.

##### 「金砂大祭礼」

This festival began in 851AD (Japanese Heian Era).

It takes place in March, once every 72 years.

The most recent Daisairei was held in March 2003.

##### 「そば」

This noodle is made of buckwheat.

It is one of many Japanese healthy foods.

You can eat it with hot or cold vegetable and/or meat soup.

##### 「凍みこんにゃく」

Konnyaku is another Japanese healthy food.

It is a stiff jelly made from special Japanese "konnyaku" potatoes.

の6項目についてのガイドブックを作ることになった。ガイドブックのタイトルや表紙も話題となり外国の方に水府村について興味を持ってもらうためにはどうしたらよいかということも考えて資料のような表紙と内容になった。マスコットキャラクターは竜神大吊り橋を守る竜として生徒が考えた。



次に、これを英語のガイドブックに訳す作業である。生徒は水府村の特色についてあれも伝えたいこれも伝えたいという思いを持っていた。しかし、それを英文に直すのは難しかった。ガイドブックとして外国の方に伝えようとしても理解してもらうのに苦労するのが目に見えていたからである。そこで、英語教師と本校に勤務するアメリカ出身のALTが、現地の方によりわかりやすい英文に訳してくれた。外国の方に分かりやすい表現にするなど日本語での説明文を書くときの事前の指導も大切であると感じた。

## 6 コミュニケーションの練習（資料）

ガイドブックができた後は、英会話の練習である。まず、  
 ステップ1として、「まずは話しかけてみましょう！！」  
 ステップ2として「いろいろな質問をしてみましょう！！」  
 ステップ3として「では、自分たちのことを話してみましょう！！」  
 ステップ4として「依頼文書を見せながら、ペンパルになってくれるよう頼んでみよう」

ステップ5として、「写真を一緒にとってもらおう！！」  
 ステップ6として「お礼を言いましょう」

という段階を踏むようにした。各グループごとに練習をした後、外国の方の役を演じている学年の教師に話しかけて受け答えをした。ステップ2で断られるパターン、ステップ3で断られるパターンなど想定して、断られてもありがとうというお礼の言葉を忘れないようにと指導をした。旅の貴重な時間を割いて対応してくれるのだということも理解してほしかった。

## How to interview

### Step 1 まずは話しかけてみましょう！



Excuse me.

I'm ..... I'm ..... We are junior high school students from Ibaraki, near Tokyo.  
 We came to Kyoto and Nara for a school trip.

(;\_;) |

Sorry, I'm busy.

O.K. Have a nice trip. / O.K. Anyway, thank you.

May I ask you some questions?

(^o^) O.K. / Sure.

### Step 2 いろいろな質問をしてみましょう！！

What's your name?

Where are you from?

When did you come to Japan?

自分で質問を考えておくと Goodだよ！

Did you eat YATSUHASHI ?

Yes, I did.

I like it very much.

Oh, I see.

YASTUHASHI is good.

I like YATSUHASHI.

No, I didn't.

I don't like sweets.

Oh, I see.

I'm sorry to hear that.

It's very delicious.

No, I didn't.

What's that?

YATSUHASHI is a Japanese sweet.

It's like crepes.

Please try it.

など

また，外国の方に失礼がないように本校のALTに依頼文を書いてもらった。



コミュニケーションの練習風景

## 7 コミュニケーション体験の位置付け

班別行動の日程の中で外国の方がたくさん訪れる場所について，旅行会社の方からアドバイスをもらった。そして，各グループごとの見学場所に，英会話をする時間を見学時間以外に設定した。金閣寺，二条城，平安神宮などいくつかの候補があがったが，コースの設定が課題解決のために大切になると考え，教師の方で割り振ってできるだけ同じ時間帯に2つ以上のグループが重ならないようにした。

下の表が，各グループの見学場所と英会話の時間を設定した表である。

太字でアンダーラインのところが英会話を位置付けた場所

班	見学場所
1班	宿舎発 平安神宮 白峯神宮 北野天満宮 <u>金閣寺</u> 竜安寺 嵐山 西本願寺 9:20 東本願寺 京都タワー 二条城 新京極 宿舎着
2班	宿舎発 <u>平安神宮</u> 白峯神社 北野天満宮 金閣寺 竜安寺 妙心寺 8:45 二条城 安井金比羅宮 新京極 宿舎着
3班	宿舎発 晴明神社 金閣寺 北野天満宮 <u>二条城</u> 東本願寺 国立博物館 10:30 梅香堂 新京極 宿舎着
5班	宿舎発 平安神宮 北野天満宮 金閣寺 竜安寺 天竜寺 <u>嵐山</u> 西本願寺 11:40 東本願寺 京都タワー 二条城 新京極 宿舎着
11班	宿舎発 北野天満宮 金閣寺 <u>竜安寺</u> 嵐山，野宮神社 八つ橋作り体験 9:55 二条城 新京極 宿舎着

## 8 班別行動の移動の方法

各グループのコースを効率的に回り，外国の方と英会話をする場所のついでにの助言をもらうために移動はタクシーとした。旅行会社の方にも事前にタクシーの会社に趣旨を伝え協力していただけることになった。さらに，外国の方はどこに多く訪れるのか，ここでは出口付近で待っていた方がよいとか，胸にツアーの印を付けている方は時間に制約があるので難しいなど具体的にそして適切なアドバイスがあった。

## 修学旅行の実際（コミュニケーション体験）

### 実践例 1 京都駅での体験

東京駅から京都駅までの新幹線の車内，英会話シートとガイドブックをもとに英会話の練習をした。新幹線の車内での英会話の練習は，生徒にとっては興味を持てるだろうかと思っていたが，一人で，二人組でと積極的に練習をする姿が見られた。家で何回も練習をしてきたとか，英会話の参考書を持ってきて練習しているとか，今まで，英語に苦手意識を持っていた生徒も一生懸命に練習している姿を見てうれしくなったのを覚えている。

京都駅では，外国の方がホームで新幹線を待っていたのでさっそく英語で話しかけるよう促した。しかし，はずかしいのと自信がないのとでなかなか口火を切ることができなかった。そこで，教師が，話すきっかけをつくり，生徒につないだところ会話がつながった。2～3人の生徒が話していたが，じっと見守っている生徒が多かった。自己紹介もできたし，どのくらいの期間滞在しているのかを聞くことができた。新幹線がホームに入ってくるとその方は新幹線の車内へと消えていったが，生徒たちは大喜びであった。英語が通じたからである。今まで学校のALTと会話をしたことがあっても知らない外国の方と話すのは初めてだったにもかかわらず，やればできるんだと多くの生徒が自信をもったようである。さらに，自分も他の外国の方とも話してみたいという感想も持つことができた。



車内での練習風景



ホームでの会話の様子

#### 生徒の感想

- ・英語が通じた。
- ・英語って楽しい。
- ・他の方とも話してみたい。



### 実践例 2 班別行動でのコミュニケーション体験

#### 【金閣寺】

ここは，外国の方が多く訪れるので一番最初に英会話ができると考えていた。案の定，二人の生徒が，金閣寺の写真撮っている外国の方と英会話をする事ができた。さらに，出口近くでは，たくさんの外国の方を見かけたが，なかなかタイミングをつかめないでいる生徒もいた。ツアーで来ている方は時間に制約があるためなかなか対応してもらえないと考え，できるだけご夫婦で来日している方に話しかけようと苦労していた。

友達が話をしたのを見ていて、「自分だってできるぞ」「話しかけてみよう」という生徒がたくさん出てきた。スムーズに話ができたと見て安心したようである。自己紹介から始まって、ガイドブックでの水府村の紹介、そして、Eメールアドレスはなかなか教えてはもらえないだろうと思っていたが、OKという方が多かった。水府村紹介のガイドブックは会話をした方にプレゼントしたところ多くの方が喜んで受け取ってくれた。出発前本校のALTから「是非プレゼントしてください、喜ぶますから。」とアドバイスを受けていたがその通りであった。

ALTから、「Eメールアドレスはなかなか教えてもらえないんじゃないかな」という話も聞いていたので、2～3のアドレスをもらえればよいと考えていたのだが、合計26通のアドレスを得ることができたのは生徒にとっても喜びであったし、我々には驚きでもあった。これもガイドブックがあったからだろうかと思った。



金閣寺でのコミュニケーションの様子



金閣寺での水府村紹介の様子

### 生徒の感想

- ・次の金閣寺に向かうタクシーの中で、英語の練習をした。だんだん緊張し始めてきた。金閣寺に着いてみると目の前に外国の方がいたのでがんばって話しかけてみた。すごく緊張した。その人は、優しく色々なことを説明してくれたので緊張がほぐれた。自分が話した英語が通じたので本当にうれしかった。少しだけど、自信がついた。また、話ができたらいいなと思った。会話が終わって金閣寺を見た。本当にきれいだなと思った。金閣寺に行ってよかったなと思った。

### 【二条城】

ここでは、同年代の外国の方と英会話ができたと。同年代ということで気軽に話しかけることができたようである。やはりアドレスを教えてもらうことができ、生徒は満足していた。英会話をした方には一緒に写真に入れてもらうようにした。後で、返事を書くときに写真も一緒に送ることで交流が続くことを期待したからである。また、生徒も一緒に写真に写ることで、交流の成果が実感できたようである。

各グループごとに使い切りカメラを1台ずつ持たせて、自分たちの英会話の様子などを撮るように指示した。撮った写真は、その日に京都市内の写真屋にプリントをお願いして、帰ってすぐにまとめて使えるように配慮した。会話をするだけでなく、一緒に写真に写るのは、生徒にとって、初対面の方でもより親近感を持たせる効果があったようである。帰ってきてから、写真を見ながら、自分が外国の方と一緒に写っている写真を大事にしたいという気持ちを感じ取れた。



### 3 生徒の感想

緊張しながらも話しかけてみると、アメリカの方でした。アメリカの方はとても明るく話しやすい人でした。「水府村」のことを説明すると、とても興味深そうにうなずいていました。その後、Eメールアドレスを書いてもらいました。やっと肩の荷がおりたような気がしました。



銀閣寺での水府村紹介の様子

初めは、緊張してしまい、なかなか話しかけるタイミングをつかめずにいました。話しかけてみると、英語は分からない、時間がないなど断られてしまうこともありました。でも、あきらめず話しかけていたら、メールアドレスを教えてくださいました。話しているときは、なるべく相手の顔を見て話そうと心がけたり、聞き取りやすい英語を話そうとしたりしました。完璧にはできませんでしたが、自分なりによくできたと思います。とても楽しく会話ができ、英語の文を何回も練習して本当によかったなぁと思いました。



平安神宮での水府村紹介の様子

練習の時できていたから大丈夫だろうという気持ちで臨み、いざ外国の方の前に立ってみたら、手と声は震えてうまく話せず緊張してしまいました。なんとか話ができ、Eメールアドレスをもらうことができ本当にうれしかったです。

いつもはキャラ先生しかしゃべったことがないので「私の英語は通じるかな。」と思いつつ外国の方に話しかけました。最初は緊張してたけど、外国の方たちは優しく聞いてくれて最後はEメールアドレスまでもらって本当にうれしかったです。



竜安寺でアドレスを教えてもらっているところ

私の英語が通じなくてショックだったからもうちょっと英語をがんばろうと思いました。外国の方との交流はとても恥ずかしく、なかなか話しかけられませんでした。やっと話しかけても一人目はツアーの人で話せませんでした。二人目の人はとても優しい人で、快く引き受けてくれてとてもうれしかったです。外国の方との会話は、ALTの先生以外はしたことがなかったのでとても緊張しました。



金閣寺でのコミュニケーションの様子

水府村紹介のガイドブックを示しながら話すことで自信が持てました。水府村の良さを自分でも知りました。

## 修学旅行後の実践

### 1 お礼のEメール

#### 【手順】

教えてもらったメールアドレスの確認  
インターネットを使ってメールアドレスの取得  
英文の雛形を見ながら英文を入力  
写真の貼付  
内容の確認  
メールの送付  
相手からの返事のEメール  
メールの再送付  
継続



アドレスを確認しているところ

アドレスをもらった26人の方にはさっそく返事を書いた。最初から英文を書くのは難しいので、教師が返事の雛形を示し、必要な所を変えて書くように指示した。英語が得意な生徒は最初から自分の力で書こうとしていたが、苦手な生徒にとっては雛形があったためにスムーズに作業を進めることができた。

メールはヤフーメールを利用した。無料であるし、個人ごとにアドレスをとることで学校だけでなく家のパソコンでも見られるようにしたかったからである。そうすることで、興味がある生徒は家で返事を受け取ったりさらに返事を書いたりすることができた。しかし、相手がヤフーに加入していなければ、送信できないので、その場合には学校のアドレスを使って再送信するなどの工夫も必要である。アドレスとパスワードは申告させて、随時教師がチェックできるようにした。また、総合的な学習の時間を利用して今後もメールの交換をしていく予定である。

英文には必ず一緒に撮った写真を添付するようにした。写真をスキャナーで取り込みjpg形式で保存すると簡単に送信することができた。

### Let's write an e-mail!!

#### Step 1 あて名

目上の人に、初めてのお便り...。ていねいに「親愛なる(ラストネーム)さん」

Dear ( )

ファミリーネーム、氏名の「氏」の部分



#### Step 2 まずはあいさつ

「こんにちは。お元気ですか。」 Hello. How are you?



#### Step 3 突然のメールでは、誰からかわからないかも...。きちんと名のこと。京都でのお礼を述べ、思い出してもらるようにしましょう。感想なども加えるとさらにgood!!

「私たちは(自分たちの名前)です。」 We are ( ).

ファーストネーム、氏名の「名」がいいですね。親しみをもってもらえるのでは

「京都の(場所)で私たちとお話してくださり、ありがとうございました。」

Thank you for talking with us at ( ) in Kyoto.

「お話できてとても楽しかったです。」 We had a great time. We enjoyed it very much. など

「英語を話すことは難しかったけど、あなたとお話できてとても楽しかったです。」

It was so difficult for us to speak English but we were very happy to talk with you.

「とてもドキドキしたけど、あなたとお話できて本当にうれしかったです。」

We were very nervous to talk in English but so glad to have conversation with you.

## 《お礼の E メール》

Date: Fri, 25 Jun 2004

Dear Ms.Weiss

Hello. How are you?

I'm Tomomi. Thank you for talking with us at Ryoanji Temple in Kyoto.

I enjoyed it very much. I worried that our English couldn't be understood but you understood it.

I was very happy. I practiced speaking English many times with my English teachers at the junior high school.

How was Kyoto? Was Japan interesting? When did you return to your country?

I had a great time in Kyoto. My favorite temple was Kinkaku-ji. It was shining in the sun, and it was very beautiful. I sent a photo of us in an attachment. I hope you like it.

I'm so happy to write you. Thank you very much. I'm looking forward to hearing from you!

Sincerely yours,

Tomomi Sekine

Suifu J.H.S, Japan



Eメールを入力しているところ

## 2 相手の方からの返事の E メール

1週間もすると5つのところから返事が届いた。26通のうち送信できないとメッセージが届いたのが10通、送信できたけれど返事が来ないのが11通であった。家のパソコンで見た生徒もいたが、返事が届いていた生徒は大喜びであった。4通は英文が通じたのだが、1通はイタリアの方で英文がわかりませんというメッセージであった。さっそく、3人に再び返事を書いた。

9月に改めて確認したところ、新たに3人の方からのメールが届いた他、2人の方とは継続してメールの交流ができた。現在も交流が続いているので、その都度A L Tに助言をもらいながら、メールを書いている。

## 《相手からの返事の E メール》

Servus Tomomi, (Servus is "Hello" in "Viennese")

I am very happy about your e-mail. Your English is very good and very easy to understand; it is obvious you practice a lot.

Austrian schools are closed in July and August (Summer-holidays), is it the same in Japan?

Japan is a nice country; my favorite city is Yokohama, because the old part and the new part are an interesting contrast.

Kyoto's tempels are impressive, but after visiting so many of them, they blurred into each other.

Austria doesn't have temples, but it has impressive churches from the middle-ages instead.

I didn't get your picture, can you send it again please? Would you like to rceive pictures from Vienna or Austria? Have a nice day, I hope to hear from you soon

Waltraud Weiss

## まとめと今後の課題

### 1 まとめ

#### 英語

これまでALT以外の外国の方とはあまり接する経験がなかったが、外国の方とコミュニケーションをすることの楽しさを感じたようである。やればできるという成就感も今後のコミュニケーションの意欲付けになった。

Eメールの交換は、文章によって自分を表現しようという気持ちを高めることができた。相手を意識した学習は今まで以上に生徒のやる気を高めることができた。

水府村を紹介するという目的意識を持って取り組んだためか、英会話の練習が意欲的にできた。また、Eメールアドレスを教えてもらうという目的もやる気を高めるのに役立った。

生徒の感想にもあるように英語学習の魅力や楽しさがわかってきた。外国の方との交流をするためにもっと勉強しよう、会話がうまくできなかつたからもっと勉強しようなど今後の英語学習の指針となった。

外国の方との交流の方法をステップ1～6までのステップアップ方式にすることで、生徒はここまでできたら今度はステップアップだなどと意欲的に英会話の練習に取り組んでいた。

#### 修学旅行

班別研修のグループを学年オープンの男女混合のグループにしたことで学年のまとまりが高まってきたように感じる。

修学旅行実行委員会の話し合い活動を通して自主的・自治的活動への意欲が高まってきた。

#### 総合的な学習の時間

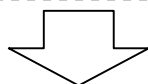
水府村紹介のガイドブックを作る作業を通して1年生の総合的な学習との関連を図るとともに、改めて水府村の良さに気づくことができた。12月には常陸太田市と合併が決まっているので、水府村を紹介して水府村の良さを知ってもらおうという気持ちも持つことができた。

総合的な学習の時間を英語の時間の発展として扱うことで指導時間に余裕が持てた。

英語教員との協力で英語と総合的な学習との連携を図り、展開することができた。また、学年の教師のT・Tにより2クラスを4人でみる少人数指導を効率的に進めることができた。

インターネットを使った調べ学習を通して課題解決学習などの学び方が身に付いてきた。

今後も総合的な学習の時間と英語との連携を図りながらコミュニケーション活動ができた。



一人一人の力を伸ばす創意と活力のある学校づくり  
(生徒一人一人のパワーアップ)

- ・一人一人のコミュニケーション能力の向上
- ・問題解決能力の向上

## 2 今後の課題

Eメール交換を続けたい生徒への継続的な支援をしたり，他の生徒へ，その内容を紹介したりすることで国際交流への関心を持ち続けられるようにしたい。

英語の学習で身に付けた力を総合的な学習で生かすことができたが，総合的な学習の時間で学んだ手法を英語で役立てる場を用意しておくことで，より関連を図った指導ができるのではないだろうか。

インターネットを使う際の個人情報の扱い方については指導をしたが，その都度，写真やアドレスなどの扱い方について指導していくべきである。

国際交流への意欲と関心が持続できるような具体的な支援を考えていきたい。

# 集団づくり及び総合的な学習の時間の場としての修学旅行の在り方

～ 中学校3か年の旅行・集団宿泊的行事の実践的取り組みを通して ～

水戸市立第四中学校 教諭 一色 三千男

## 1 はじめに

## 2 研究の実践

東京ディズニーランド校外学習（1年）での実践（平成12年度）

- ア 東京ディズニーランドを活動場所とした理由
- イ 東京ディズニーランド校外学習のねらい
- ウ 東京ディズニーランド校外学習の活動の流れ

船中泊を伴う自然教室（2年）での実践（平成13年度）

- ア 船中泊を伴う自然教室のねらい
- イ 船中泊を伴う自然教室の活動の流れ

修学旅行（3年）での実践（平成14年度）

- ア 修学旅行のねらい
- イ 修学旅行の活動の流れ

平成15, 16年度修学旅行での取り組み

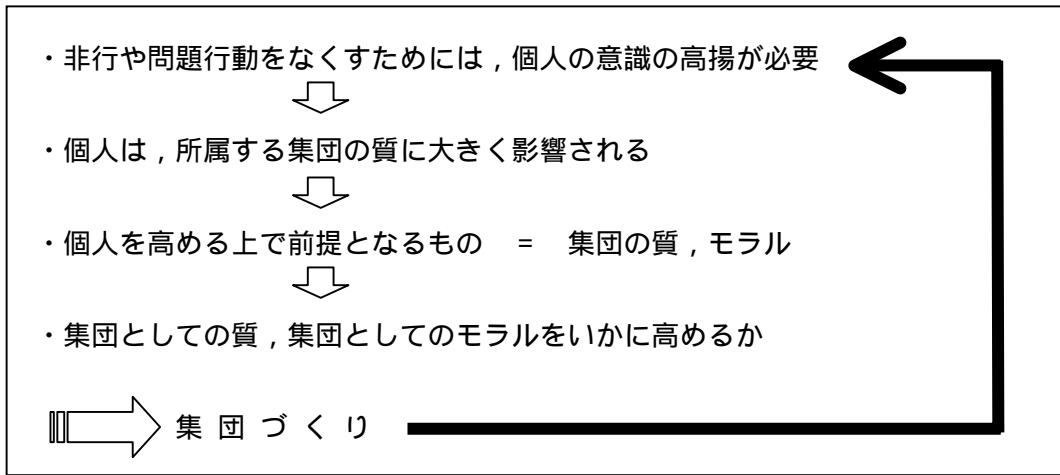
- ア 注目を浴びた体験活動（平成15年度）
- イ タクシー班別行動の導入（平成16年度）

## 3 実践の成果

## 4 今後の課題

## 1 はじめに

本校は、県下の大規模校であり、私が学年主任として3年間担当したこの学年は9クラスで約350人を数える生徒を擁していた。それだけに生徒指導上の問題も学年にとって大きな問題であった。そこで、次のような考えのもとに生徒指導上の問題に対応し、学年経営を進めていくことにした。



修学旅行などの旅行・集団宿泊的行事は、集団やリーダーを鍛え、高めるための格好の場である。

また、新教育課程に導入された総合的な学習の時間は、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること、また、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動を主体的、創造的に取り組む態度を育てることにねらいがある。

本研究は、「集団づくりの場」「総合的な学習の時間の場」としての修学旅行を達成させるために、中学1年から旅行・集団宿泊的行事で取り組んできた実践をまとめたものである。

## 2 研究の実践

東京ディズニーランド校外学習（1年）での実践（平成12年4月～6月）

本校では、1年時の5月に校外学習を実施している。中学校入学後、最初の旅行・集団宿泊的行事であり、2年時、3年時の活動につながる基になる活動としてとらえた。

### ア 東京ディズニーランドを活動場所とした理由

班活動で1日の生活をする上で、格好の場所である。

生徒たちにとって魅力的な場所である。

事前の活動として、班別行動計画の作成・総合的な学習の時間の課題の設定  
当日の活動として、班別行動・総合的な学習の時間の課題解決にむけての現地  
での調査活動

事後の活動として、総合的な学習の時間の課題をまとめるための班新聞発行

—————▶ 生活班を単位にした種々の活動が展開できる。

今後の船中泊を伴う自然教室（2年）、修学旅行（3年）における班活動の訓練の場

## イ 東京ディズニーランド校外学習のねらい

学校生活での生活班をグループ活動の単位にすることにより，班長としてのリーダー性を育てるとともに，班の中で互いに協力し合う心を育てる。

1日の生活を班で活動することを通して，生徒が自分たちの生活を管理できる力を育てるとともに，生徒一人一人の集団への所属感を高める。

校外学習における学習課題を設定し，総合的な学習の時間の場とする。

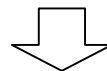
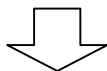
## ウ 東京ディズニーランド校外学習の活動の流れ

### 班の活動・個人の活動

- ・校外学習の課題づくり  
ディズニーランドで調べたことを班や個人の学習課題として設定する。
- ・班新聞(調べたことをまとめるもの)の作成計画を立てる。
- ・係，役割分担を決める  
いつ，誰が，何をやるのか。

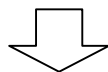
### 学級の活動・学年生徒会の活動

- ・校外学習のきまりづくり  
学年生徒会で原案づくり 学級で修正案 学年生徒会で最終決定
- ・スローガン作成  
学年生徒会 学級 学年生徒会
- ・しおり表紙イラスト募集キャンペーン



### 校外学習当日

- ・校外学習のきまりを守り，自分たちで決めたことを自分たちで守り通す。
- ・班の活動計画に基づき，一人一人が各自の役割分担を実行する。
- ・学習課題を解決するための活動(班新聞作成のための取材活動等をする。)
- ・1日の生活を共にすることを通して，お互いを理解し合い，親睦を深める。



### 事後の活動

- ・班新聞の作成  
ディズニーランドで調べてきたことを，新聞形式にまとめる。  
各自の分担箇所の記事をまとめる。全体のレイアウトを考え，記事を配置する。
- ・完成した班新聞は，各教室前の廊下に掲示し，それぞれの学級の取り組みが見られるようにする。
- ・班新聞コンクールの実施  
取材内容，紙面構成など総合して，優秀な班新聞を表彰する。

ここでの流れが，2年生時の船中泊を伴う自然教室，3年生時の修学旅行での基本的な流れとなった。





学年最優秀賞を受賞した班新聞

#### 生徒の事後の感想文から

今回、私はアトラクションではなく、学習面の方に印象が残った。いつもなら、アトラクションが楽しかったとか、パレードを見て良かったとしか思わないけれど、今回は違った。たぶん、それは迷子センターの人の優しさや、笑顔で私たちの質問に答えてくれたお兄さんがいたからだろうと私は思った。

5月12日、私は、班で決めたサービス施設のことを調べるため、迷子センターへ向かった。中に入ると優しくなお姉さんやお兄さんがいた。質問に答えてくれませんかと言うと、優しい笑顔でいいですよとってくれた。そして、どの質問にも笑顔で答えてくれた。

私は、こんなところが印象に残ったのだろう。私は将来、獣医になりたいと考えていますが、このお兄さんのように優しくお客さんに接していきたいと思った。

#### 船中泊を伴う自然教室（2年）での実践（平成13年4月～7月）

水戸市では、6月に中学校2年生を対象に船中泊を伴う自然教室（以下船中泊）を北海道で実施している。北海道の自然や文化、船での生活等、生徒たちにとって好奇心を沸き立たせるに十分な素材があり、総合的な学習の時間を進める場として大変適している。また、4泊5日にわたり、学級の仲間と寝食を共にすることを通して、集団への所属感を深めたり、リーダーとしての資質を高めたりすることができた。

#### ア 船中泊を伴う自然教室のねらい

北海道の雄大な自然にふれ、自然の豊かさや美しさに感動する。

班活動を通して、班長のリーダーとしての意識を高めるとともに、互いに協力する心を育てる。

集団生活を通して、生徒同士や生徒と教師の相互理解を深めるとともに、学級集団としてのまとまりを深める。

総合的な学習の時間を通して、課題解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育てる。

右の資料は、船中泊に向けて班編成についての学年通信である。1年の校外学習と同様に学校生活の生活班を体験活動、総合的な学習の時間の活動の単位とした。

**ChallengeII** 水戸四中 第2学年通信 No.4  
発行日 平成13年 5月 2日

## 船中泊に向けて 第2期班編成

2年生になって、早くも1ヶ月が過ぎようとしています。昨年に引き続いて取り組んでいる班活動ですが、各クラスとも順調に活動ができています。清掃や給食といった当番活動が、時間内に互いに協力しながらできており、身支度や給食のテーブルクロスもきちんとできています。朝のあいさつはもろんのこと、廊下ですれ違うときにも『こんにちは』と気持ちの良いあいさつができています。2年生のスタートとして十分に合格点がつけられるものであり、すばらしいスタートを切ることができています。

第1期班の活動のねらいは、生活の基本徹底づくりでしたが、そのねらいを十分に達成することができました。生活の基本ができた第1期班に区切りをつけ、本格的な班活動としての第2期班編成が各クラスで進んでいます。すでに編成を終えて、第2期班をスタートしているクラスもあります。1年生の時に経験してきたことなので、班編成に当たっての班長立候補や班編成会議(班長会議)などもスムーズに取り組んでいます。意欲的なその態度に2年生になっての前向きな姿勢を感じ、うれしく思っています。

今回の第2期班は学校生活における生活班であると同時に、2年生最大の行事である船中泊の活動班でもあるわけです。船中泊における第2期班の位置づけは、船の中や北海道での体験活動・総合的な学習の活動の単位です。充実した体験活動や総合的な学習での課題づくり・課題解決のためには、班としてのまとまりがあり、集団としての高まりが見えなければなりません。

第2学年では、4月当初に学年の教師間で次にあげる学年がめざす生徒像を設定し、それに向けて取り組みことを確認しました。

**学年がめざす生徒像**

一進んで自分の良さを生かせるアクティブな生徒一

- 1 思いやりの心で仲間と生活できる生徒
- 2 できうる最高を求めてがんばる生徒

船中泊は、このめざす生徒像に向けての大きな一歩となる活動の場ではなくありません。その意味で、第2期班の果たす役割は極めて大切なわけです。船中泊まで約1ヶ月間での学校生活や事前の取り組みに於いて班、学級、学年がさらに一段レベルアップし、船中泊が充実したものになることを大いに期待しております。



テーブルクロスもパツパツ

### イ 船中泊を伴う自然教室の活動の流れ

#### (ア) 班・個人の学習課題の設定

これらの課題は、右の写真のように掲示し、自分のクラスだけでなく、他のクラスの班や友達がどのような課題で船中泊にのぞむのかが分かるようにした。



#### (イ) 事前調べ学習の実施

##### ア) 自然理解のために

- ・北海道の自然についての事前調査の徹底

『北海道ってどんなところ?』

##### イ) 総合的な学習の時間のために

体験活動についての事前調査～何が体験できるのか

体験することについての事前調査(事前の調べ学習)

例) バターづくり～バターについての調べ学習(バターの作り方、バターの歴史など)

札幌市内班活動～札幌市内の事前調査(見学ポイントの選定など)

北海道についての事前調査～地理的側面、歴史的側面等

船についての調べ学習～海上輸送の歴史、乗船する船について等

(ウ) 現地での活動

- ・体験活動，現地での見学・調査活動
- ・班長会議，班ミーティング
- ・学級訓，学級旗発表会の実施



ジャムづくり体験



学級訓・学級旗発表会

(エ) 事後の班新聞，船中泊報告文集の作成

事後の活動としては，校外学習と同様に総合的な学習の時間の課題として調べたことや体験したことを班新聞にまとめた。最後に船中泊報告文集を作成した。これはクラスごとの編集をせず，体験のジャンル別、活動別等に分けて編集し，後輩が船中泊の計画を立てる上で検索しやすいようにデータベース化して，活用できるようにした。

修学旅行（3年）での実践（平成14年4月～6月）

修学旅行のしおりの序文として次の文章を載せた。

**プロジェクト『修学旅行』**

第3学年主任 一色 三千男

1年の東京ディズニーランド校外学習，2年の船中泊，この学年は，それぞれ，これまでの水戸四中にない取り組みをしました。その一つは，普段の生活班を活動班としたことでした。それは，行事を通して，学級や班の仲間との絆を深め，自分は，この学級・班の一員であるという所属感を深めることでした。二つ目として，総合的な学習の取り組みがありました。課題づくり，現地での調べ学習，事後の班新聞づくりの流れをこの2年間で確立しました。

このように，この修学旅行は2年前の校外学習を計画した時点ですでに始まっていたのです。二年越しの大きなプロジェクトだったのです。だからこそ，このプロジェクトを完成させる修学旅行を何としても成功させたいという思いでいます。

修学旅行そのものの準備は，3年に進級してからの短期間のものでしたが，みなさんには，これまでの体験や学習があります。きっと，このプロジェクトを成功させてくれるものと確信しています。さあ，修学旅行です。楽しい思い出とともに，仲間づくり，学習面の充実を図れる修学旅行を実現しましょう！

しおりの序文にもあるように、修学旅行はこれまで1年の校外学習，2年の船中泊で取り組んできた旅行・集団宿泊的行事の実践の集大成としてとらえた。

#### ア 修学旅行のねらい

わが国の歴史・文化のふるさとである京都・奈良を訪ね，先人の築いた文化遺産のすばらしさや自然の美しさに触れ，文化遺産や自然を大切にしようとする心を養う。

クラスや班ごとに計画を立て，古都の名所旧跡を訪ねることを通して，自主性や協調性を養う。

生徒と生徒，先生と生徒が寝食を共にすることにより，好ましい人間関係づくりをし，また，団体活動を通して，健康と安全に留意した望ましい集団生活の仕方を身に付ける。

#### イ 修学旅行の活動の流れ

学校生活における生活班を活動の単位とすることは，すっかり定着し，4月の3年進級早々に班編成に取り組んだ。この生活班を中心に，修学旅行の具体的な計画づくりが進められた。

活動の流れはしおりの序文にもあるように，校外学習，船中泊の取り組みを通して，この2年間で確立したものである。

#### (ア) 修学旅行における総合的な学習の時間の課題づくり及び事前学習

修学旅行の場となる京都，奈良は，1200年以上もの歴史を有し，歴史的にも，文化的にも日本を代表する都市であり，総合的な学習の時間の課題となる素材が豊富にある。課題としては，次のようなものを生徒たちは設定した。また，校内でインターネット閲覧が可能になり，インターネットを通して事前学習の資料を入手する姿も見られるようになった。

- ・ 京都，奈良の伝統文化について
- ・ 京都の産業について
- ・ 京都，奈良の歴史について
- ・ 京菓子等に見られる食文化について
- ・ 神社仏閣建築の特色について
- ・ 仏像等の仏教美術について 等々

(イ) 現地の調査活動，体験活動

第1日 京都学級別行動

京都との出会い<京都の伝統文化・産業の理解>

学級単位の見学・体験活動

修学旅行初日は，昼頃に京都に到着する日程であり，余裕のある日程を組むために京都市内に限定した学級単位の体験学習を実施した。下の写真にもある京扇子絵付け体験，清水焼絵付け体験のほか，友禅染体験などの体験学習ができた。



金閣寺にて



京扇子絵付け体験



清水焼絵付け

第2日 京都，奈良班別行動

現地での班単位の調査活動，体験活動

班別行動では，活動の範囲を広げ，班の計画によっては，奈良へ行く班もあった。

体験活動の中には，京都ならではのものとして，右の写真のような舞妓体験をした生徒もいた。

第3日 京都学級別行動

学級単位の見学・体験活動

昼までの短い時間ではあったが，抹茶体験を実施した学級もあり，京都での最後のひとときを過ごした。



舞妓体験をした生徒

(ウ) 事後の班新聞づくり、発表会、班新聞コンクールの実施

事後の活動として定着した班新聞づくりに取り組んだ。班新聞づくりも3年目になり、それぞれの班が課題に基づいて、工夫ある紙面構成をし、見やすい紙面づくり、目を引く紙面づくりなど工夫していた。できあがった班新聞は学級で発表会をし、学級で優秀班新聞を決定した後、廊下に掲示した。その後、学年の担任外の教師で学年優秀賞、最優秀賞の選考を行い、学年集会の場で表彰を行った。

班新聞の取り組みは、他の学年にも広がり、行事終了後、班新聞づくりに取り組む姿が1年や2年でも見られるようになった。



廊下に掲示された修学旅行班新聞

学年優秀賞を受賞した修学旅行班新聞



舞妓を学習課題とした班新聞



京都の神社を学習課題とした班新聞



平成14年5月18日(土)午前6時30分、水戸駅は雨模様だった。その憂鬱な天候とは対照的な、生き生きとした表情の生徒たちの顔があった。出発式が始まった。実行委員の3組皆川尚英君の力強い出陣のあいさつに続く生徒たちの元気な声に、これから始まる2泊3日の旅への期待感が感じられた。7時16分、団体専用臨時列車は、水戸駅7番ホームを後にした。トランプなどのゲームで友との楽しいふれあいの時が流れた。上野駅到着、山手線・京浜東北線で東京駅へ。いっしょか、雨もやみ、いよいよ



京都へと導く新幹線ひかり315号が東京を出発した。お弁当、おやつ、友との語り…。車中での2時間半は瞬間に過ぎ、古都京都が生徒たちを迎えた。初日の行程は、学級別行動・体験学習だった。京菓子への絵付け、友誼体験、清水模への絵付けなど、それぞれの学級で選択した体験学習をした。京都の伝統工芸にふれることができたひとときだった。土産物屋では、買えない自分だけのお

土産を作ることができた。夕方には、宿舎であるホテル本能寺会館に着いた。そのホテルは主任の一人も高校時代に泊まった伝統のあるホテルだった。ホテルは、バス停・地下鉄駅が目の前。班別行動のスタート場所として最高だった。夕食、入浴…。京都第1日が終わった。翌日は、これまでの経活動の成果が問われる班別行動日だった。主任も学年職員も翌日の班別行動が、修学旅行のメインの日程であることを実感していた。生徒たちの活動に期待していた。

5月19日(日)、班別行動の朝を迎えた。またも雨だった。班別行動出発前、これまでの指導の流れに違い、『服装の整った班から出発』の形を取った。教師集団にこだわりのあった「きちんとした服装・身なりで行動させたい」と、教師集団の気遣いと生徒集団の自覚の高まりがあった。1組から9組まで、すべての班が出発した。出発して間もない頃に担任の携帯着信音が「○○君がいなくなりました」「京都駅に行けません」「女子とはぐれてしまいました」等々、生徒たちは、担任の助言を受けながらも、自分たちの目と耳と足で京都や奈良の街を巡った。はつきりしない天候だった。夕方、5時、日も傾きはじめた。続々と班別行動を終えて帰ってくる生徒たち。1時間近くも帰着が遅れ、担任や主任をやきもさせた班もあった。しかし、疲れながらも、無事に班別行動を終えたことに、満足感と安堵感の表情の生徒たちがそこにいた。夕食、入浴…。たくさん歴史ある光景とたくさん思い出を胸に京都第2日目が終わった。疲れきって、早々と寝息を立てる生徒の寝顔に、中学3年と書っても、まだあどけなさがあつた。かわいかった。

修学旅行最終日、5月20日(月)となった。最終日は、学級別行動だった。京都での最後の時を過ごした。あつという間に京都駅集合時刻12時40分になった。13時14分新幹線出発。そのころ、水戸は午前中の雨のため、校庭がぬかるんで最悪の状況にあった。生徒を迎える保護者の車を校庭に入れるかどうかの検討が重ねられていた。校庭利用が不可能な時に備えた動きを四中職員がしていた。常陸銀行と恵比寿の駐車場の信用依頼を手配し、それらの駐車場に保護者の車を誘導するためのプラカード作り、さらに整所整所の交差点に立つ職員配置計画を立てていた。出迎えの体制はできていた。幸い、3年生が学校に到着する頃には、校庭のコンディションも回復し、はじめの予定通り、保護者の車を校庭に入れることができた。修学旅行の最終日、陰では、3学年の生徒のために、たくさんの人々の努力があった。以上、『プロジェクト』風に修学旅行をふりかえりました。

修学旅行についての学年通信

平成15, 16年度修学旅行での取り組み

ア 注目を浴びた体験活動(平成15年度)

修学旅行最終日に着物の着付け体験をしたクラスがあり、さらにその着物を着たまま、最終日を過ごし、家に着物姿で帰るといった体験をした。

マスコミの注目を浴び、後日、京都新聞にその記事が掲載された。右はその新聞記事である。

修学旅行生を呼びこく人を呼んで、事業は、四上月の累計が昨年年度実績の年間千人を上回る勢い。着物を着て寺社仏閣を巡るだけでなく、着物を着たまま、清水模や新幹線に乗りこむ学校もあり、同財団は「一石二鳥」に期待している。

「ピエス」を充実させている。同財団は修学旅行生の宿泊に着付け講座などを実施。着付け講座は、着付けの楽しさを体験し、一生の思い出に残る体験として、好評です。また、西陣織工業組合も、西陣織会館(京都市上京区)で展示販売に力を入れているが、昨年度は三千四百二人の利用者で、今年度は四千二百人の利用が予定されている。同財団は、着付け講座と展示販売を併せて実施し、着付けの楽しさを体験し、一生の思い出に残る体験として、好評です。

同財団の外編一夫業務課長は「若いうちに着物の楽しさを体験し、京都の街に着物姿が増えて効果は大きい」と喜んでいる。

着しざ知って

帰宅後 返送

イ タクシー班別行動の導入（平成16年度）  
 タクシーによる班別行動は、目新しいものではないが、水戸市では、市内での申し合わせにより、これまでは、利用されていなかったが、平成16年度初めて導入された。時間のロスが少なく、多くの見学地を回れ、班単位の体験活動もできるなどの利点から本校でも導入に踏み切った。当日は9クラスで72台のタクシーが次々にホテル玄関前に横付けされ、生徒たちを乗せて行った。



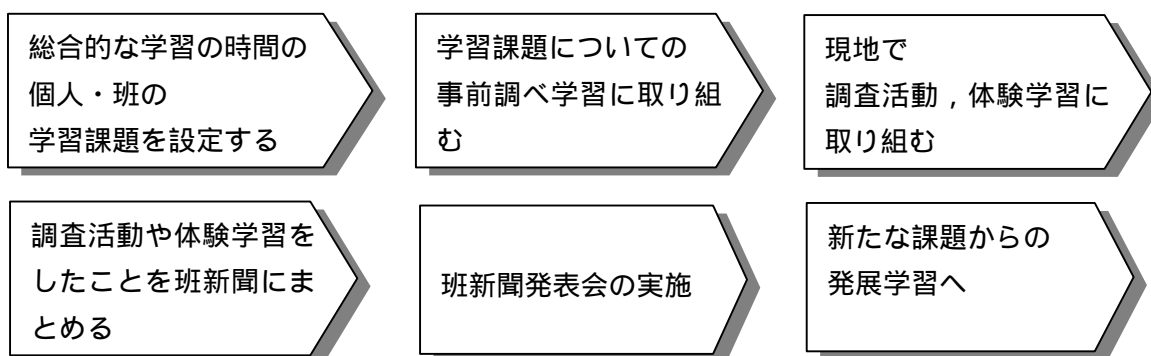
タクシーで出発

### 3 実践の成果

総合的な学習の時間の取り組みについての流れができた。

基本的な流れは1年の校外学習できあがり、2年の船中泊、3年の修学旅行とその流れを踏まえ、生徒たちはそれぞれの活動に意欲的に取り組むことができた。

#### 総合的な学習の時間の流れ



総合的な学習の時間では、この流れで取り組むことにより、旅行・集団宿泊的行事を総合的な学習の時間として有効に活用することができた。

普段の学校生活での生活班を活動班にすることで集団の質の向上が図れた。

行事のためのグループを作るのではなく、普段の学校生活での生活班を活動の単位にすることで、各活動を通し、リーダーである班長を育て、班の集団としての質の向上が図れた。

実行委員会を組織することで、生徒たちの自治的な力の向上が図れた。

各学級のリーダーの核である学級委員の組織である学年生徒会を中心に行事に対する実行委員会を組織し、持ち物や服装についてのきまり、その他生活上のきまりをつくったり、現地での班長会議の運営に当たったりした。これらの活動を通して、生徒の自治的な力の向上を図ることができた。



学年生徒会での話し合い



#### 4 今後の課題

##### 話し合いの時間の確保，話し合いの質の向上

集団づくりにおいて、「話し合い」は土台となるものである。学級内，班内のことについて，みんなで話し合いをし，決定しなければならない。「話し合い」は，生徒たちに「自分の意志で決める」「自分たち相互の力で解決する」という力をつくり出す上で大切である。学校生活の多忙さの中で，いかに「話し合い」の時間を確保するかが大きな課題である。旅行・集団宿泊的行事における取り組みでも，話し合いを通して，いろいろな計画が立てられたり，集団生活におけるルールづくりがなされたりする。その意味で，話し合いの質を高めることも必要である。集団の質の向上や問題解決に向けて，建設的な意見交換ができる訓練は，行事だけにとどまらず，普段の学校生活における話し合い活動にかかっていることを意識しながら指導に当たっていく必要がある。

##### 総合的な学習の時間の充実のための旅行・集団宿泊的行事の在り方

総合的な学習の時間の充実のためには，旅行・集団宿泊的行事における事前学習をより充実させる必要がある。これから行く場所が，どのような場所で，どのようなものがあるのかなど，事前に十分に調べておくことで現地での活動がより充実する。そのためには，種々の情報収集の方法や手段を生徒たちに知らせる必要がある。

##### 班別行動における交通手段のあり方

平成15年度までは京都での交通手段として地下鉄，バスの1日乗車券を利用した。バスや地下鉄の運行表をもとに計画し，現地でも移動の際にバスの路線番号やバス停を確認し，班員同士で話し合い，判断しながら1日の班別行動をすることになる。これは，集団づくりや総合的な学習の時間の観点から考えると，意味のあることである。しかし，タクシーによる班別行動では，効率よく見学でき，より多様な体験活動も組むことも可能になる。修学旅行において，何に重きを置くかにより交通手段の選択が決まってくるが，『単に便利で安全だから』という理由だけでタクシーを利用するという選択ではなく，修学旅行において何をねらいとするのかを明確にして交通手段を選択する必要がある。





関東地区公立中学校修学旅行委員会「研究発表会のあゆみ」

昭和41年以来、次の研究発表会を実施した。（敬称略）

回	年度	発表者	県・学校名	講師	研究内容・講演内容
1	昭和41	増淵 増雄 吉沢偏之助 関根武之進	栃木・泉が丘中 千葉・柏中 埼玉・黒浜中		・修学旅行のカリキュラムについて ・修学旅行の安全対策 ・修学旅行の保健衛生について
2	42	高畠 栄治 根岸 幸治	茨城・赤塚中 群馬・昭和東中		・修学旅行における事故の発生と対策 ・中学生の関西修学旅行の実施について
3	43	宮本 常一 荒幡 義輔 小沼 常治 君島 光夫	武蔵野美術大 埼玉・本太中 東京桜町高校 栃木・南犬飼中		講演「日本の宿の変遷と修学旅行」 ・修学旅行の問題点の教育的思考 講演「修学旅行における見学指導の在り方」 ・栃木県における修学旅行の実態
4	44	小泉 義 高田 福松 君島 光夫 本間 康一	茨城・水戸五中 埼玉・幸手中 栃木・南犬飼中 千葉・川間中		・安全実施のための運営と問題点 ・今後の修学旅行の在り方 ・生徒の手による修学旅行 ・特別活動としての学校管理上の問題点
5	45	現地研修会（京都）			
6	46	宮本 常一 人見 芳正 塩入安三郎 兵頭 ヤス	武蔵野美術大 栃木・箒根中 栃木・鹿沼西中 栃木・田沼東中		講演「修学旅行における望ましい観光の在り方」 ・小、中、高の関連の中で ・わかかさ号で行こうとしたのに ・新幹線を利用して
7	47	樋口 清之 高橋 武司 高田 福松	国学院大 千葉・柏中 埼玉・幸手中		講演「歴史の真実」 ・より効果的な修学旅行について ・修学旅行引率費負担の現状と公費負担
8	48	佐藤 政次 高田 福松	茨城土浦日大高 埼玉・幸手中		講演「歴史と暦」 ・修学旅行の意義と目的
9	49	樋口 清之 菊地昌一郎	国学院大 埼玉・加須北中		講演「旅と情報伝達 忍者の正体」 ・オリエンテーリングを取り入れた修学旅行の実際
10	50	萩原 進 谷 正久	群馬郷土史家 群馬・古巻中		講演「群馬の風土と人」 ・群馬県の修学旅行の現状
11	51	神坂 重光 糸川 妙子	茨城・古河二中 栃木・藤岡二中		・本校における修学旅行の企画運営 ・我が校の修学旅行の理論と実際 - 自主の気風を目指して -
12	52	坂田 次雄	千葉・松戸三中		・修学旅行における道德教育の実践
13	53	吉田 貫 潮池 ルミ	茨城・水戸二中 埼玉・蕨東中		・充実した修学旅行を目指して ・修学旅行における観察学習を効果的にするために - しおり作成と活用 -
14	54	生方実太郎 阿部 茂	群馬・多那中 群馬・新治中		・集合教育を取り入れた修学旅行 - 生徒の主体的な取り組み - ・有意義な修学旅行にするために - 新幹線における車窓教育 -
15	55	荻部 正夫	栃木・久下田中		・有意義な修学旅行にするために - 奈良公園におけるグループ別活動 -
16	56	天田 和之 平田 幸平	埼玉・岡部中 埼玉・日進中		・東北修学旅行を実施して ・総力を挙げての修学旅行の運営 - 大宮市立中学校長会 -
17	57	鈴木 勝 小川 辰雄	千葉・松戸四中 千葉・吾妻中		・東北へ修学旅行を実施して - 生徒のアンケートをもとに - ・生徒の自主プランによる修学旅行
18	58	岡野 久 青木 英	茨城・永山中 茨城・見川中		・連合による修学旅行の効果的なあり方を求めて ・生徒を生かして育てる修学旅行を目指して
19	59	高橋 哲夫 福原 昭 福本長治平	文部省教科調査官 群馬・中之条四中 群馬・富士見中		講演「修学旅行の今日的課題」 ・本郡修学旅行の現状と課題 ・よりよい修学旅行の在り方を求めて
20	60	高橋 哲夫 加藤 隆勝 滝田 潔	文部省教科調査官 筑波大学教授 栃木・横川中		講演「自己教育力を育てる修学旅行」 講演「現代青少年の心理と集団活動」 ・修学旅行を通じての自己啓発
21	60	松本 三郎 片山 悦男	栃木・壬生中 栃木・宝木中		・本県修学旅行の現状と課題 ・よりよい修学旅行の在り方を求めて
22	61	西川裕二郎 村田小夜子	千葉・南行徳中 千葉・大洲中		・みちのくの修学旅行 ・修学旅行を省みて
23	62	小日向勝美 川上 次雄	埼玉・朝霞四中 埼玉・大宮第二東中		・洛中班自由行動による見学活動 ・自由性を生かした修学旅行
24	63	高橋 哲夫 宮本千代子 川上 徹 須藤 和彦	文部省教科調査官 茨城・土浦第六中 茨城・日立豊浦中 茨城・下館中		講演「学習指導要領改訂の方向について」 ・生徒自身の生徒の手による修学旅行 ・お互いを高め合うグループ別見学学習 ・生徒と教師がともに作り、触れ、感じる修学旅行

回	年度	発表者 県・学校名 講師	研究内容・講演内容
25	平成 元	<会場 群馬県厚生年金会館> 高橋 哲夫 文部省教科調査官 後藤 秀夫 群馬・小野上中 真庭 幹郎 群馬・沼田西中	講演 「新学習指導要領に於ける特別活動」 ・達成感の充実を目指した修学旅行 ・体験的な班別学習を取り入れた修学旅行
26	2	<会場 ブラザインくろかみ> 渡辺 康隆 栃木県教委副主幹 松岡笑久子 栃木・小山美田中 大滝 伸一 栃木・宇都宮国本中	講演 「研究成果の確認と今後の課題」 ・主体性を育てる班別行動 ・あたらしい修学旅行の在り方を考える
27	3	<会場 志津コミュニティセンター> 渡部 邦雄 文部省教科調査官 斎藤 正行 千葉・国分台西中 山田 守人 千葉・柏五中	主題 「 <b>集団の中で自己を生きし協力しあう修学旅行をもとめて</b> 」 講演 「集団の中に自己を生きす修学旅行」 ・リーダー養成を中心にすえた修学旅行 ・班別にテーマをもつ修学旅行をつくるには
28	4	<会場 埼玉会館> 井桁 孝 全修協修旅部長 大磯 宏 埼玉・所沢富岡中 藤川喜久男 埼玉・狭山東中	主題 「 <b>教育性を高める修学旅行をめざして</b> 」 提言 「学校週五日制と修学旅行」 ・主体性を伸ばす班別行動 ・体験学習を通して生き方を学ぶ東北修学旅行
29	5	<会場 茨城県立青少年会館> 井桁 孝 全修協修旅部長 秋田 昌彦 茨城・五所ヶ丘中 安島 一之 茨城・赤塚中	主題 「 <b>自主的に活動し、自ら学ぶ修学旅行</b> 」 提言 「新学力を培う修学旅行」 ・生き方、在り方を学ぶ体験学習への援助指導の試み ・体験を通して自らの生き方を考える修学旅行への取り組み
30	6	<会場 ブラザインくろかみ> 大槻 達也 文部省環境教育専門官 田上 富男 栃木・市貝中 古田 真隆 栃木・豊郷中	主題 「 <b>主体的に活動し、自ら学ぶ修学旅行</b> 」 講演 「修学旅行における生徒の自主性」 ・三年間を見通し自ら学びとる力の育成を目指す修学旅行 ・研究テーマの設定を中心に生徒自らが計画した修学旅行の実践
31	7	<会場 群馬県生涯学習センター> 高橋 哲夫 文教大学教授 今成 保治 群馬・渋川北中 田村 正紀 群馬・池田中	主題 「 <b>主体性を育てる修学旅行</b> 」 講演 「これからの学校教育と修学旅行」 ・集団の行動力を高める修学旅行 ・主体性を育てる修学旅行の実践
32	8	<会場 市原市勤労会館> 鈴木 俊幸 千葉・土中 眞野 義幸 千葉・木刈中	主題 「 <b>主体的に活動し、自ら学ぶ修学旅行</b> 」 ・自主性を育む修学旅行の取り組み ・生徒の自主性を高める修学旅行のあり方
33	9	<会場 浦和市市民会館> 森嶋 昭伸 文部省初中局教科調査官 田村 俊明 埼玉・鷲宮中 金子 桂一 埼玉・鴻巣西中	主題 「 <b>主体性を伸ばし、行動力を高める修学旅行</b> 」 講演 「学校教育の転換と修学旅行への期待」 ・生徒の知恵と発想を大事にし、主体的に生きる力を育む修学旅行 ・自主的活動をめざした修学旅行
34	10	<会場 水戸市市民会館> 岩原美智枝 茨城・日立坂本中 坂入 秀範 茨城・下館北中	主題 「 <b>主体的に活動し自ら学ぶ修学旅行</b> 」 ・自ら学ぶ態度を育てる修学旅行をめざして ・主体的に活動し、実践力のある生徒を育てる修学旅行
35	11	<会場 ブラザインくろかみ> 高塩 博美 栃木・宮の原中 片川 慶子 栃木・毛野中 三芝 直美 //	主題 「 <b>生きる力</b> 」をそだてる修学旅行 ・体験学習を取り入れた修学旅行 ・自らの生き方を求める体験学習としての修学旅行
36	12	<会場 群馬県生涯学習センター> 森嶋 昭伸 文部省初中局教科調査官 高橋 隆雄 群馬・新治中 埴田 栄一 群馬・長野原西中 田中 充弘 //	主題 「 <b>生きる力</b> 」を育てる修学旅行 講演 「これからの学校教育と修学旅行」 ・自主的に取り組む班別行動をめざした修学旅行 ・自ら学び、自ら考え、生き生きと活動する修学旅行 - 総合的な学習の時間を活用して -
37	13	<会場 アミュゼ柏> 田淵 実 千葉・西志津中学校 佐藤 卓 // 池田 保 千葉・湖北台中学校 澁谷 善武 // 水戸 勝英 //	主題 「 <b>生きる力を育てる修学旅行</b> 」 ・体験学習を取り入れた班別自主学習 ・自ら課題を発見し、自ら計画し、自ら検証する修学旅行を目指して - 修学旅行を総合的な学習と位置づけての実践 -
38	14	<会場 さいたま市民会館おおみや> 渡辺 勝徳 埼玉・神泉中学校 関口 陽子 // 梅津 稔 埼玉・南高麗中学校	主題 「 <b>みんなで創ろう21世紀の修学旅行</b> 」 ・自ら学び自ら考える力の育成を目指す修学旅行 ・総合的な学習の時間の視点から見た修学旅行
39	15	<会場 ブラザイン・くろかみ> 生田目 薫 栃木・国本中学校 岩崎 昌美 // 田中 弘子 栃木・栃木西中学校 佐藤 宏行 //	主題 「 <b>みんなで創ろう21世紀の修学旅行</b> 」 ・自己決定の場面を生かした修学旅行 ・体験的な学習を通して見つめなおす自分とふるさと再発見の旅

**第40回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会紀要**

平成16年11月5日

発行 関東地区公立中学校修学旅行委員会

財団法人 全国修学旅行研究協会

[事務局] 〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-6-8

TEL 03-5275-6653 FAX 03-5275-6653

E-mail shuryo@h2.dion.ne.jp